

この手引きは、主として日本語で論文を作成する際の書き方を示したものである。英語で論文を作成する場合はジョゼフ・ジバルディ著、原田敬一訳『MLA 英語論文の手引き 第4版』（北星堂、1998）を参照すること。また引用や引証のしかたについてはこの手引きの例とは異なる場合もあるので、疑問の点は指導教員に相談すること。

## 目 次

<b>【I】 基本事項</b> .....	1
<1> 用紙と記入法	
<2> ハイフネーション	
<3> 表題の示しかた	
<4> その他	
<b>【II】 引用</b> .....	2
<1> 短い文章の引用（英文）	
<2> 長い文章の引用（英文）	
<3> 和文の引用	
<4> 引用文の一部を省略する場合	
<b>【III】 カッコ内傍証</b> .....	4
<1> 傍証とは	
<2> 洋書の場合	
<3> 和書の場合	
<4> 同一の資料からの反復引証	
<b>【IV】 注</b> .....	6
<b>【V】 引証資料リスト</b> .....	7
<1> 体裁	
<2> 配列	
<3> 書物の引証	
<b>【VI】 卒業論文</b> .....	9
<1> 規定	
<2> 実際例      (表紙、目次、書き出し、引証資料リスト、引用文の和訳と原文の書き方、Summaryの書き方)	
<b>【VII】 レポート</b> .....	17



## 〈2〉 ハイフネーション

英語の単語が2行にまたがる場合、必ず音節の切れ目で区切って、行末の切れ目にハイフンを付ける。音節の切れ目がどこかは辞書で調べる。年代（例：1999）や固有名詞などはなるべく行末で区切らず、次の行にまわす。

## 〈3〉 表題の示しかた

- 英語の書名や雑誌名には下線を施し、書物の一部を構成する論文、記事、エッセイ、短編などの表題は引用符（“”）で囲む。
- 表題の各単語は大文字で始める。ただし、冠詞・前置詞・等位接続詞・不定詞の to は大文字にはしない（これらが表題またはサブタイトルの最初にくる場合は大文字にする）。

例 The Mystery of Udolpho      To the Lighthouse

- 日本語の書名や雑誌名は『』で、書物の一部を構成する論文、記事、エッセイ、短編などの表題は「」で囲む。

## 〈4〉 その他

- 日本語の文章の書き出しや新しい段落のはじめは、1字下げて書く。
- 英文の場合ダッシュは2つのハイフン(--)で表し、前後にスペースをあげない。

例(英文)      “I’m so happy--and yet I don’t know why!”

例(日本語)      アパートや部屋を借りている人々——『大いなる遺産』の老ミセス・ウォルプスのような人でさえ——も、通例寝室と居間は持っていた。

## 例(原稿用紙)

	ア	パ	ー	ト	や	部	屋	を	借	り	て	い	る	人	々	—	『	大	
い	な	る	遺	産	』	の	老	ミ	セ	ス	・	ウ	ォ	ル	プ	ス	の	よ	う

## 【II】 引用

### 〈1〉 短い文章の引用(英文)

- 散文は原則として3行まで、韻文は2行までの引用は“”で囲んで本文の中に組み入れる。
- 引用文中の引用は‘ ’を用いて示す。会話文など原文が“”の場合も‘ ’に改める。
- コンマやピリオドは原則として引用符の中に入れる。
- 韻文の行の切れ目は斜線 (/) によって示す。

### 例(散文)

イギリス人の国民性についてジョージ・オーウェルは“They have a horror of abstract thought, they feel no need for any philosophy or systematic ‘world view.’”(101)と述べている。

### 例(韻文)

年老いた羊飼いのメリビーは、“It is the mind, that maketh good or ill, /That maketh wretch or happy, rich or poor”(6.9.30)と述べ、与えられた境遇に満足することの重要性を説く。

## <2> 長い文章の引用 (英文)

- 4行以上の散文および3行以上の韻文の引用は新しい行で始める。本文の左端より半角10字分(原稿用紙の場合は2マス)のスペースをとり、11字目(原稿用紙の場合は3マス目)から書き始める。
- 原稿用紙の場合は引用文の上下をそれぞれ1行あける。長い英文の引用はタイプするのが望ましい。
- 韻文の場合、字下がりや行中・行間のスペースなどについて、原文の形をなるべく忠実に再現する。行が長すぎて右のマージンに収まらないときは次の行に続ける。その際、残りの行は引用文の左マージンから半角3字分のスペースをとって書き始める。

### 例(散文)

次の場面では、病気の少年が寝ている部屋の閉じた空間とは全く対照的な、凍てついた真冬の戸外の風景が描写される。

←半角→  
10字分      It was a bright, cold day, the ground covered with sleet that had frozen so that it seemed as if all the bare trees, the bushes, the cut brush and all the grass and the bare ground had been varnished with ice. I took the young Irish setter for a walk up the road and along frozen creek, but it was difficult to stand or walk on the glassy surface and the red dog slipped and slithered and I fell twice, hard, once dropping my gun and having it slide away over the ice.(28)

そこでは川だけでなく、木々や草、地面などあらゆるものが氷でおおわれていて、冷たく硬質の世界を形作っている。

### 例(韻文)

この詩の中でホイットマンは、機関車の力強い動きとリズムを詩のリズムに移しかえることに成功している。

Thy black cylindric body, golden brass and silvery steel,

半角3字分

Thy ponderous side-bars, parallel and connecting rods, gyrating, shuttling at  
←→ thy sides,

Thy metrical, now swelling pant and roar, now tapering in the distance,

Thy great protruding head-light fix'd in front... (4-7)

### <3> 和文の引用

和文の引用は、おおむね英文の場合に準じ、短い引用は「」に入れて示し、引用文中の引用は『』で示す。長い引用の場合は「」を付けず、改行し本文左端より5字分（原稿用紙の場合は2マス）のスペースをとり、6字目（原稿用紙の場合は3字目）から書き始める。

### <4> 引用文の一部を省略する場合

引用の一部を省略する場合は、前後1スペース空けのピリオドを3つ (...) を用いて示す。文の終わりの場合は4つ付けるが、この場合最初のピリオドの前および最後のピリオドの後にはスペースをとらない。日本文中の省略は3つの中点 (...) で示す。

#### 例

奴隷制に反対の立場を取るサミュエル・ジョンソンは次のように論じている。

... it may be doubted whether slavery can ever be supposed the natural condition of man. It is impossible not to conceive that men in their original state were equal...An individual may ... forfeit his liberty by a crime; but he cannot by that crime forfeit the liberty of his children. What is true of a criminal seems true likewise of a captive. (239)

## 【Ⅲ】 カッコ内傍証

### <1> 傍証とは

傍証とは、論文を書くにあたって用いた作品や資料の出典を明らかにすることである。通常丸かっこ内に著者の姓とページナンバーを示し、論文の末尾の引証資料リストにおいてその資料についての情報を明示する。本文中に著者名が挙げてあれば、かっこ内はページナンバーだけでよい。

#### 例

とかく宮廷詩人とみなされがちなエドモンド・スペンサーであるが、その作品から浮かび上がってくるのはむしろ、権力の中心から外れた周縁的ともいうべき立場であることが指摘されている(Burrow10)。

とかく宮廷詩人とみなされがちなエドモンド・スペンサーであるが、その作品から浮かび上がってくるのはむしろ、権力の中心からは外れた周縁的ともいうべき立場であることを Colin Burrow は指摘している(10)。

いずれの場合も引証資料リストでは下のようになる。

Burrow, Colin. Edmund Spenser. Plymouth: Northcote, 1996.

## 〈2〉 洋書の場合

### (a) 著者が複数の場合

例 (Gilbert and Gubar 13)  
(Smith, Partridge, and Carter 103-11)

### (b) 同一著者による複数の著作を引証する場合

著者の姓のあとにコンマを付け、その後にその著作の表題（表題が長い場合はその短縮名）を示し最後にページ数を記す。

#### 例

シェイクスピアのソネット集には女性に対する嫌悪感が感じられる(Duncan-Jones, Shakespeare's Sonnets 48)。一方、シドニーの詩にはそうした女性嫌悪の要素はまったく見られない。シドニーは幼少期を高い教育を受けた女性たちにも囲まれて過ごしたが、そのことが作品中に現れる女性像に影響を与えたとの見方もある(Duncan-Jones, Sir Philip Sidney 1-15)。

#### 引証資料

Duncan-Jones, Katherine. Sir Philip Sidney: Courtier Poet. London: Hamish Hamilton, 1991.

—, ed. Introduction. Shakespeare's Sonnets. The Arden Shakespeare 3rd ser. London: Nelson, 1997.

### (c) ページナンバーの示し方

ページナンバーには p. や pp. を付けない。複数のページにわたる範囲を示すときはハイフン (-) でつなぐ。3桁以上の数で、百の位を示す必要がない場合には、ハイフンの後の数字は下2桁だけを記す。

例 12-14 321-33 1972-79

#### (d) 文学作品を引証する場合

- いくつかの版が出版されている文学作品の場合、使用した版のページナンバーだけでなく、巻ナンバーや章ナンバーなども併記すると便利な場合が多い。ページナンバーの後にセミコロンを付け、その後に略語 (ch. [章]、sec, [セクション]、bk. [巻] など) とともにナンバーを記す。

例 (Wollstonecraft 22; ch. 2, sec. 3)(144; bk. 3, ch. 3)

- 作品が幾つかの部分に分かれている韻文 (韻文の戯曲なども含む) を引用するときはページナンバーを省き、区分 (act [幕]、scene [場]、book [巻]、part [部] など) および行ナンバーを記す。それぞれの数字の間にはピリオドを置く。

例 (Macbeth 2. 2. 59-60) 『マクベス』第2幕第2場 59-60 行を示す。

#### <3> 和書の場合

洋書の場合に準じる。

例 (川崎 103) (川北、『路地裏の大英帝国』23)

#### <4> 同一の資料からの反復引証

同じ資料に頻繁に言及する場合、最初に短縮名を示しておくことができる。

例

ウルストンクラフトは『女性の権利の擁護』(以下、『擁護』)において・・・  
オスカー・ワイルドのThe Importance of Being Earnest(以下、『Earnest』)は・・・

#### 【IV】注

論文の本文で言いつくせないコメントや説明、引証資料に対する評価、多数の引証を含む事項などは、注によって示すことができる。ワープロを使用する場合は尾注 (論文の末尾にまとめて付ける)、原稿用紙の場合は脚注 (各ページの下部に付ける) を原則とする。注番号は論文全体の通し番号にし、右肩に上付きで付ける。注は左マージンから半角 5 字分スペースをあけて注番号を付け、1 スペースあけて書きはじめる。注が 2 行以上にわたるときは、2 行目以下を左のマージンから始める。

例

(本文) この点についての批評家の見解はさまざまである。<sup>1</sup>

(注) 1 代表的な見方としては Hunter 97-122; Crane 388-97;  
Thompson 89-93; King 112-32 などが挙げられる。

## 【V】引証資料リスト

引証資料リストには、書物や論文の他、フィルム、録音、テレビ番組、その他印刷物でないものも含めて、引証するすべての資料を挙げる。

### <1> 体裁

- 引証資料リストは論文の末尾に付ける。ページを改めるが、リストは本文のページナンバーに続けて、各ページにナンバーを付ける。たとえば、論文の本文が 10 ページで終わっていれば、引証資料リストは 11 ページ目から始まる。
- 一つの項目が 2 行以上になるときは、次行（以下）を左端から半角 5 字分下げる（6 字目から書き始める）。
- 体裁については巻末の実際例を参照のこと。

### <2> 配列

- 引証資料は、著者の姓に従い、アルファベット順（日本語の資料は五十音順）に配列する。
- 引証資料の種類によっては、リストを 1 次資料と 2 次資料に分けたり、資料の種類別（書物、論文、録音など）に分けることもある。

### <3> 書物の引証

#### (a) 引証資料の基本的な書き方

引証資料は、著者名、書名（下線引き）、出版情報、の順に記す。

#### 例

（単著の場合）

Burrow, Cplin. Edmund Spenser. Plymouth: Northcote, 1996

（著者が 2 人以上の場合）

Marshall, P. J., and Blyndwr Williams. The Great Map of Mankind: British Perceptions of the World in the Age of Enlightenment. London: J. M. Dent & Sons, 1982.

（論文集から個別の論文を引証した場合）

Sayre, Robert. "Autobiography and America." Autobiography: Essays Theoretical and Critical. Ed. James Olney. Princeton: Princeton UP, 1980.146-68.

## 著者名

姓名の順を逆にし、姓のあとにコンマを付ける。姓名のあとにはピリオドを付ける。

## 書物の表題

副題を含めて、表題は全部記す。副題がある場合、その表題が疑問符、感嘆符、ダッシュなどで終わってない限り、主な表題のすぐあとにコロンを付ける。表題の全部のあとにピリオドを付ける。コロン、副題、句読符などを含めた表題全部に下線を引くが、表題の後のピリオドには下線を引かない。

## 出版情報

出版された都市名、出版社(者)名、発行年を記す。これらは必ず書物自体からとり、文献目録とか図書館の目録カードから取ってはならない。引証する出版社名はタイトルページからとる。タイトルページにない出版情報は著作権ページ(タイトルページの裏側)に、(日本の場合、書物の最後の奥付に)書いてある。出版の場所と出版社との間にはコロン、出版社と発行年との間にはコンマを付け、出版年のあとにはピリオドを付ける。書物にいくつかの都市名が記してあるときは、最初のものだけを挙げる。

## 例

Ashton, John. Social Life in the Reign of Queen Anne. London: Chatto & Windus, 1893

Bloom, Allan. The Closing of the American Mind: How Higher Education Has Failed Democracy and Impoverished the Souls of Today's Students?  
London: Penguin Books, 1988

Morley, Henry. Memoirs of Bartholomew Fair. London: Chapman & Hall, 1859

Shelley, Henry C. The British Museum: Its History and Treasure. Boston: Page, 1911.

Swift, Jonathan. Gulliver's Travels. Ed. Christopher Fox. Boston: Bedford Books of St. Martin, 1995

## (b) 定期刊行物中の記事(論文)の引証

筆者名、論文の表題(引用符で囲む)、雑誌名(下線引き)、巻ナンバー、発行年(丸かっこで囲む)、コロン、ページナンバーの順に記す。

## 例

Scotto, Peter. "Censorship, Reading, and Interpretation: A Case Study from the

Soviet Union.” PMLA 109 (1994): 61-70

Lemons, J. Stanley. “Black Stereotypes as Reflected in Popular Culture, 1880-1920.” American Quarterly 29 (1977): 102-16.

### (c) 日本語資料の引証

日本語の引証資料は英語のものの下に続け、著者（翻訳書の場合は原作者）の姓を五十音順に配列する。出版地は記す必要はない。

#### 例

オールティック、リチャード・D 著、要田圭治、大嶋浩、田中孝信訳、『ヴィクトリア朝の人  
と思想』音羽書房鶴見書店、1998。

廣野由美子『十九世紀イギリス小説の技法』英宝社、1996。

依田雅春「Lawrence の三つの夢——Women in Love について」『英文学研究』  
72.2(1995)、55-65。

## 【VI】卒業論文

### 〈1〉 規定

1月14日午後5時までにファイルに綴じて英語英米文学科コモンルームに提出する。締め切り厳守のこと。（1月14日以前の提出は原則として認めない）

1. 長さは、和文で手書きの場合は横書きでA4判400字詰め原稿用紙（購買部で販売している所定の用紙）を使い30枚以上、ワープロの場合は、A4のワープロ用紙に40字×25行をめやすとして12,000字以上。英文の場合は、A4の用紙12枚以上（1枚80字×25行）。注、引証資料リスト等は含まない。
2. イ 注は原稿の末尾にまとめてつける（ただし、所定の原稿用紙を使う場合は脚注とする）。  
ロ 英語の引用文は和訳を、英語の文献を和訳したものの引用文は原文を巻末（引証資料リストのあと）に付ける。  
ハ 外国の人名、地名、書名等は少なくとも初出の箇所て原名を書く。  
ニ 最後に、A4の用紙1枚分の英文のSummaryをつける。（p.17の例を参照のこと）
3. 論文のコピーを作り、口頭試問の際に持参すること。

〈2〉 実際例 表紙

The Merchant of Veniceに見られる現代性

—Shylock について—

甲南花子

(指導: 森北太郎教授)

1999年1月

## 目次

(1) 章にタイトルがない場合

目次	
序 .....	1
第1章 .....	3
第2章 .....	6
・	
・	
・	
結論 .....	10
引証資料 .....	12

(2) 章にタイトルがある場合

目次	
序 .....	1
第1章 Shylock の社会的地位 .....	3
第2章 エリザベス朝における人権差別 .....	6
・	
・	
・	
結論 .....	10
注* .....	12
引証資料 .....	13

\* 尾注を用いる場合

## 序

『ノーサンガー寺院』(Northanger Abbey)<sup>1</sup> は、ジェイン・オースティン(Jane Austen)の死後 1818 年に『説得』(Persuasion)とあわせて出版されたが、オースティンの六つの小説のうち最も初期のものと考えられる。『分別と多感』(Sense and Sensibility)、『自負と偏見』(Pride and Prejudice)の最初の草稿が書かれた後、『ノーサンガー寺院』は 1798 年から 1799 年にかけて書かれ、<sup>2</sup>1803 年クロズビー(Crosby)という出版社に送られるが、出版されることなく長年放置されていた(W. and R. A. Austen-Leigh 230-33)。『分別と多感』、『自負と偏見』はそれぞれ 1811 年、1816 年に出版される際大幅に書き直されたが、1816 年にジェイン・オースティン自身が書いた『ノーサンガー寺院』の「広告文」(“Advertisement”)には「1803 年に書き上げた」とあり、1803 年以後多少手が加えられた可能性はあるが、広範

この小説は 1790 年代に大流行したゴシック小説(Gothic Romance)<sup>3</sup>のパロディとして書かれ、特に当時最も人気のあったラドクリフ夫人(Mrs. Ann Radcliffe)の『ユドルフォアの怪奇』(The Mysteries of Udolpho, 1794)を意識して物語が進められている。「彼女[オースティン]の喜劇の源は、本質的に、未熟な精神が文学と人生を混同することにある」とアレンが指摘するように(144)、『ノーサンガー寺院』のヒロイン、キャサリン・モーランド(Catherine Morland)はゴシック小説を読み耽り、そこに描かれているような世界を現実の中

ラドクリフ夫人とその一派のゴシック小説はその舞台を中世のイタリアやフランスに設定するが、そこで求められているのは「人間性」ではなく、あくまでも「面白さ」であり戦慄的恐怖である。そこに善悪明白な人物が登場してもそれはそれなりの意味があるのであって、それを現実と混同するほうがおかしいのである。ラドクリフ夫人への非難よりも、ココでは読む側の非が指摘されるべきであろう(田辺 22-23)。良識を取り戻したキャサリンは、現実の人間は「善悪入り混じった複雑なもの」(200; vol. 2, ch.10)で、ヘンリーやエリナーといえど完全ではありえないし、将軍の性格に多少の傷があっても当然だと納得する。

## 注

1 “abbey”とは、もともと修道院またはその一部であった地方の大邸宅を言い、『ノーサンガー寺院』と訳すのは必ずしも適切とは言えないが、日本での慣例に従った。

2 姉 Cassandra Austen の覚え書きによる(Chapman42)。

8 ゴシック小説は感傷小説、感受性の小説(novel of sensibility)と同一線上にあるもので、別のタイプの小説ではない(Litz 61, 175 参照)。



## 引証資料

- Austen, Jane. Northanger Abbey. The Novels of Jane Austen. Ed. R. W. Chapman. 3rd. ed. Vol.5. London: Oxford UP, 1959. 13-252
- . “Advertisement, by the Authoress, to Northanger Abbey.” Northanger Aabby and Persuasion. The Novels of Jane Austen. Ed. R. W. Chapman. Vol. 5 London: Oxford UP, 3rd ed. 1959. 12
- . Sense and Sensibility. Ed. James Kinsley and Claire Lamont. Oxford: Oxford UP, 1995.
- Austen-Leigh, William, and Richard Arthur Austen-Leigh. Jane Austen: Her Life and Letters. A Family Record. New York: Russell and Russell, 1965.
- Chapman, Richard Walter. Jane Austen: Facts and Problems. Oxford: Oxford UP, 1948.
- Litz, Arthur Walton. Jane Austen: A Study of Her Artistic Development. New York: Oxford UP, 1965
- Moler, Kenneth L. Pride and Prejudice: A Study in Artistic Economy. Twayne’s Masterwork Studies 21. Boston: Twayne, 1989.
- Radcliffe, Anne. The Mystery of Udolpho. Ed. Bonamy Dobree. Oxford English Novels. Oxford: Oxford UP, 1966
- アレン、ウォルター著、和知誠之助監修、和知誠之助、大榎茂行、直野裕子、藤本隆康共訳『イギリスの小説・上く批評と展望』文理、1975。
- 榎本みなこ『ジェイン・オースティンの小説とその周辺』英宝社、1984。
- 大島一彦『ジェイン・オースティン——「世界一平凡な大作家」の肖像』中公新書、1997。
- 川本静子『ジェイン・オースティンと娘たち——イギリス風俗小説論』研究社、1984。
- 田辺昌美『ジェイン・オースティンの文学』あぼろん社、1965。
- ヒル、ブリジット著、福田良子訳『女性たちの十八世紀 イギリスの場合』みすず書房、1990。
- 廣野由美子『十九世紀イギリス小説の技法』英宝社、1996。

## 引用文の和訳(引用が和訳の場合は原文)の書き方

### (1)和訳の書き方

まず論文(本文)のページ数を書き、引用の順に和訳を「」に入れて書く。和訳には本文のページナンバーとは独立したページナンバーをローマ数字で付ける。

i
ジェイン・エアの精神的波長
中村けいこ
p.2 「この人たちがわたしを愛さなかったとすれば、同様にわたしの方でもかれらを愛しはしなかった」
p.3 「『憎しみに打ち勝つ最上のもは暴力ではないわ。また傷を癒す最良のもは復習ではないことよ』」

(2)外国語の引証資料を和訳したものを本文に引用する場合には、その原文を書き出す。書き方は(1)に準じる。

p.2 “The novel has all the signs of having been written at different times...and with varying intentions...”
p.5 “This is not a comforting conclusion, but it is the truth of life, and we must not expect comfort from her.”

## Summary の書き方

### Wordsworthianism in Silas Marner

Asako Nakaoka

Silas Marner, 'a story of old fashioned village,' has been highly evaluated as one of the most balanced works and as a work having something in common with Wordsworth...

## 【VII】 レポート

手書きの場合は、ペンまたはボールペンで書き、鉛筆では書かないこと。

上部左端を一カ所ホチキスなどでとめて提出する。基本事項、引用の仕方などは論文に準じる。

### Susan Hill の短編 "The Badness Within Him" の Col の心の変化

英語科1年B組 995038D

岡田要子

Col は、3 歳の頃から夏になると毎年家族と共に避暑にくるこの海辺の家を愛し、ここでの自然に囲まれた生活をとても楽しんでいた。彼は 10 代に入ると、...

かな書きが望ましい例

恰も 或る 或いは 如何なる 何れ 所謂 居る 於(い)て 恐らく 各々 主に 及び 拘らず 且つ 事 如く 殊に 毎に 更に 然るに 従って 既に 即ち 全て 確かに 只、唯 達 例えば 度に	あたかも ある あるいは いかなる いずれ いわゆる いる、おる おいて おそらく おのおの おもに および かかわらず かつ こと ごとく ことに ごとに さらに しかるに したがって すでに すなわち すべて たしかに ただ たち たとえば たびに	為 出来る 通り 時に 所 共に 尚 無い(助動詞) 等 並びに 成る可く …難い 一度 再び 他 殆んど 先ず 全く 益々 又 迄 勿論 物 故に 様な(に) 宜しい 等 僅かに 我々	ため できる とおり ときに ところ ともに なお ない など ならびに なるべく …がたい ひとたび ふたたび ほか ほとんど まず まったく ますます また まで もちろん もの ゆえに ような(に) よろしい ら わずかに われわれ
---	--	---	---